

慶応三年四月二日より慶応三年四月四日まで

P8310671right

二日酉 陰乍晴

第九時仏館へ壱岐守殿、御尋問有し旨也、余(貞太郎)は関るに無段、出 殿泊□□ 御□は上意を□る、午下詰所へ廻る、英館へ引合に(鉦山師の儀)行く、明日六半時御供持にて被遊(御帰京)御帰京、明日兵庫出立の命あり加藤同断也、蘭公使午下兵庫へ出立、佐久間江□昨の謝として□菓子一折贈り来る、右一折を謝して内海へ廻申し重箱二を返す、鉦師甘トン□前へ面□の義に付、サトウ(*)より壱書差越す、明願宿寺詰より□前方へ達し方為取計候

三日戌 陰午前より雨

(兵庫立出)第八時十五分前出立、十一時十五分前神崎午休、尼ヶ崎にては、領主より先払足輕 兩人□□私の者兩人
を出す、右は断る、第二時半過西の宮旅亭着加州合宿也、英人アストン兵庫出立□けとて立寄る

P8310671left

弥一初め一行着の届として藤五郎来る

四日亥 陰漸晴

朝第五時半過、西宮出立第十時兵庫旅籠町着、直に役□集会所来迎寺□島寺加藤供々
出る池野出る、原弥一等夫の談合、猶旅宿へ午飯に引取、再度来迎寺へ出、池野城前旅宿等
尋問

其内各公使入津上陸の注進あり、余は和田岬の方へ出張亜蘭兩人を案内、地形一見にて当所
本陣へ導て小憩す、亜は直に本船へ帰り候旨也、蘭は神戸一見に行く旨、同所には加藤出張、
英公使には

池野、原兩人案内前両地一見せしむ、猶又来迎寺へ至る仏公使薄晩前入津す、役には帰りを
待□りし処、微熱あり先だつて舍に帰て加養す、加州合宿也、蘭は代□長鯨丸御船出帆
手都合云々の義にて御軍艦方根来清吉来り、強て面し徒々演述す

*アーネスト・サトウ(英国公使館通訳)

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。